

J Aバンク広島・食農マッチングフェア

一月三十日 広島産業会館

二百六十名来場・大商談会 「パンには七塚バターがおススメ」



(出展ブース)

広島県の農林水産業者と加工流通業者とのビジネスマッチングを通じて、広島県の農林水産物の新たな可能性を再発見するため、J Aバンク広島は「食農マッチングフェア」を開催した。

広略からは、ミルクファームH A R Uの稲村正雄店長と生産振興課の名越道弘主任が参加した。

フェアは、県内の農林水産業者、農業法人、J Aグループ等がブース出展を行い、来場されたバイヤーに地元の特産品をPRする企画。来場者数は二百六十名、六十八団体が出

展し、当組合は七塚バターやアイスクリームの商談を行った。

商談では、七塚バターの癖の無い香りが好評で、アイスクリームの種類の多さ、生乳本来の風味を活かした味もバイヤーからの満足度が高かった。

また、会場では「ご飯に合う食材を探そう」、「パンに合う食材を探そう」と題した試食イベントが行われ、当組合は「パンに合う食材」としてバターを提供した。

多くの参加者から、「パンにはやっぱりバターが合う。美味しかった」と嬉しい言葉を頂いた。

今後、バイヤーから取引を検討したいとの声もあり、販路拡大につながる貴重な商談会となった。



(好評を得た七塚バター)

酪政連の窓 (2/16、東京都千代田区永田町 参議院議員会館B109 会議室)

原油価格高騰から生乳・飼料輸送コスト上昇 輸送業者の軽油軽減税率を求む!



日本酪農政治連盟(委員長 佐々木勲)は、「酪政連事務局長・事務担当者会議」を開催し、各都道府県の酪政連事務局長及び担当者、関係者・報道機関から約40名の出席があった。広島県酪農政治連盟からは西中晃事務局長(広酪参事)と森田康博担当職員(総務管理課主任)が出席した。

開会にあたり、佐々木委員長からは、最近の酪農情勢に触れ「平成29年度は酪農にとって激動の年であったが、皆様のおかげで乗り越えることが出来た」と感謝の言葉とともに挨拶された。

主な内容は、研修会と同連盟の通常総会の議案説明の二項目。研修会の講師は、農林水産局の信戸一利係長(牛乳乳製品課生乳生産需給係)、「酪農の働き方

を考える」と題して講演が行われ、加えて、平成29年度補正予算・平成30年度当初予算・ALICによる関連対策の概要説明を受けた。

日本酪政連からは、来る3月7日(水)開催予定の「平成30年度日本酪農政治連盟通常総会」の議案説明を受けた。

西中事務局長からは、畜安法改正に伴う広島県内での生乳受託販売契約締結に向けた取組状況の報告と共に、昨今の燃料価格の高騰に伴い、集送乳や飼料運搬車両等の輸送コストが増加する現状から、酪農家のみならず、これら運送会社にも軽油軽減措置等の税制改正を求めることが、酪農家の生産コスト上昇を抑制でき、酪農所得の向上に結びつくものとして、平成30年度の要請事項として加えられるよう強く要請し、委員長からは検討の上、要請事項に加えたいとの考えが述べられた。

次回通常総会では、広島県酪農政治連盟からは温泉川寛明委員長の出席を予定しており、今年度は役員改選期でもあり、任期満了に伴う役員選任が協議される見込みである。